

下田まち遺産ニュース その1

景観法による届出※が9月1日から一部変更となります。 太陽光パネル設置などに新たな制限。

下田市景観計画は、平成21年12月に策定されました。しかし、策定後5年が経過し、下田市を取り巻く環境が変化してきました。特に再生可能エネルギーの利用推進により、大規模な太陽光発電設備の建設計画が市内で進められていますが、それらの大面積のモジュール（パネル※上写真）は、光の反射や周囲との色彩不調和など、景観に及ぼす影響が懸念されます。

また、平成26年11月に伊豆縦貫自動車道河津下田道路Ⅰ期区間が都市計画決定されたことを受け、伊豆縦貫自動車道にアクセスする道路の沿道に商業施設の出店が予想され（※下写真）、里山等の景観に及ぼす影響も懸念されます。

そこで、下田市は景観計画を改正し、一定規模を超える太陽光発電設備、またそれに類似する風力発電設備等を新たに届出対象行為とすると同時に、沿道型商業施設に対して届出を要する規模を新たに設け、良好な景観に配慮していくよう働きかけていきます。

なお、届出対象規模等の詳細については、下田市ホームページ又は建設課にて閲覧可能です。

※景観法による届出

下田市で定める行為（建築物や工作物を作ること等）をする前に、下田市景観計画に定められている基準に適合しているかを確認させていただくために“届出”をしています。



沿道型商業施設のうち景観に配慮していただいた事例紹介 ローソン下田まいまい通り店

こちらは景観法に基づく届出対象ではありませんでした。しかし、下田市や下田市景観まちづくり審議会から、まいまい通りは、毎年8月に開催される下田太鼓祭りのクライマックスの場面であること等、市民に愛されていることを伝え、景観に配慮するようお願いさせていただき、一般のローソンの意匠から、景観に配慮したものに変更していただきました。

景観配慮ポイント1

通常高い位置に設置される沿道看板が、低い位置に設置されています。



景観配慮ポイント2

コーポレートカラーである明るい青色の看板を景観に配慮して黒色に変更されています。



下田まち遺産ニュース その2

今年も下田太鼓祭りが始まります！

下田認定まち遺産である下田太鼓祭り（正式名：下田八幡神社例大祭）が開催されます。

今年は8月14日（金）、15日（土）の2日間。供奉道具（ぐぶどうぐ）、御神輿（おみこし）の後ろを各町の太鼓台が操り出し、旧町内をくまなく練り歩きます。

これは江戸時代の下田奉行・今村伝四郎正長公が制定したもので、そのルーツは大坂夏の陣に大勝した徳川方の軍勢が大坂城に入城した様にあると言われています。その後400年近くたった今でも伝えられ、太鼓祭りの笛の音や、腹に響く太鼓の調べを聴けば心は躍り、供奉道具や御神輿の勇ましい掛け声に気持ちも体も沸き立つことでしょう。



知っていましたか？ 祭りでつながる下田と吉祥寺の輪

今から30年程前。東京都武蔵野市にある吉祥寺出身の方が、下田太鼓祭りを気に入ってくれて、仲間を含めた5名で下田太鼓祭りに参加しました。それがきっかけとなって吉祥寺と下田の交流が続き、24年程前からは下田弥治川町にて下田太鼓祭りに参加していただいています。9月に開催される吉祥寺秋まつりでは、下田弥治川町の人たちが参加し、お互いの御神輿を担ぎ合っています。

最初に御神輿を担ぎに来ていた方々は家族を連れて来ていました。その息子さん達の世代が成長し、今では若衆として供奉道具を担いでいて、2代続く交流となっています。その2代目達にも家族ができ、とある方は「自分の息子がもう少し大きくなったら下田太鼓祭りに参加してもらいたい」と夢を語っているそうです。



太鼓台が東京へ

平成24年の第40回吉祥寺秋まつりでは、下田弥治川町と七軒町の太鼓台を運び、観客30万人の前で演奏を披露しました。このときには、2つの町はもちろん、他の町からも有志を募り、大いに盛り上がりしました。中には首都圏に住む下田出身の方々も、吉祥寺に太鼓台がやってくることを聞きつけ、たくさん訪れたそうです。

東京に住む方々も夢中にさせてしまう下田太鼓祭りは、ぜひとも後世に繋げていきたい下田まち遺産です。人々を夢中にする熱量を今年も感じてみてはいかがでしょうか。



平成24年の吉祥寺秋まつりに参加したときの下田の祭衆。



下田の祭衆の太鼓を観覧する吉祥寺の祭衆。